

福島県の沖合は、黒潮と親潮が出会い、また深さ数千mの日本海溝につながっています。このため、暖流域、寒流域、深海などさまざまな環境に適応したたくさんの生き物が生息しています。福島県は長い海岸線を持ち、たくさんの海の恵みを受けています。ここでは福島県で見られる多種多様な生物を紹介しています。

### (3) 福島県の沖合表層魚

福島県の沖合では、主に回遊魚のサンマやマイワシ、カツオ、マサバなどが漁獲されます。

サンマはサンマ棒受け網、マイワシやマサバは、群れを囲んで網を落とし、網をしぼってまき上げるまき網の一種、巾着網で主に漁獲します。

カツオは疑似針を用いた一本釣が広く知られていますが、まき網や流し刺し網でとる漁法もあります。



▲カタクチワシの水揚げ

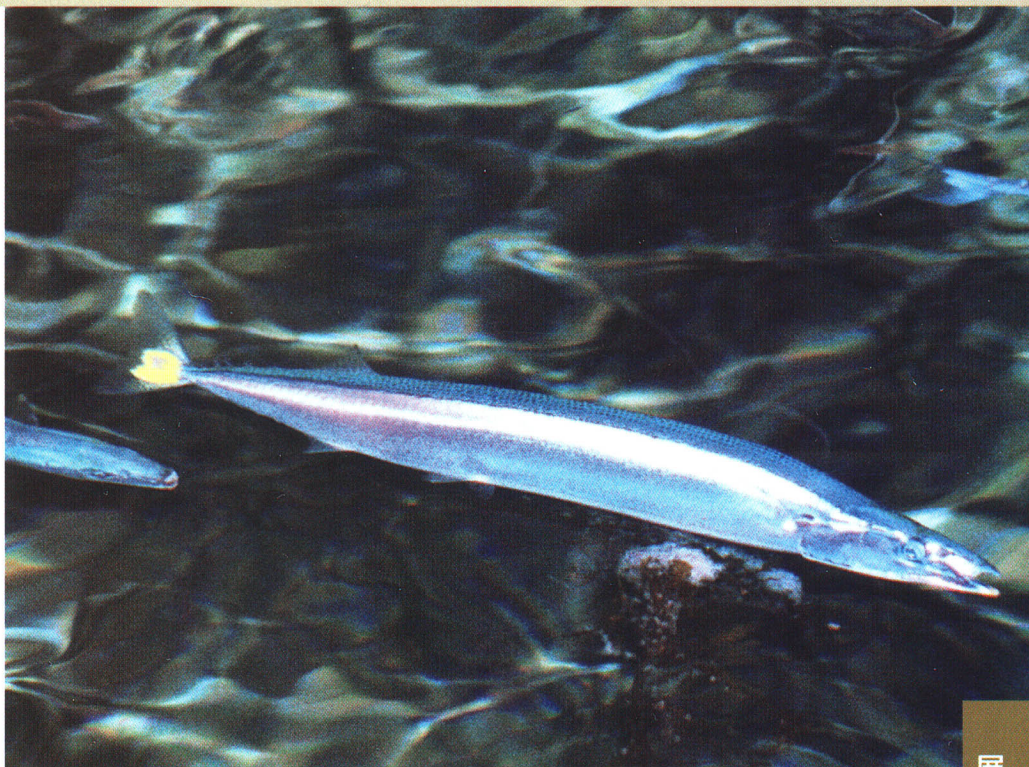
### (4) 深海でとれる魚

福島県沖の水深100mより深い場所では、アオメエソ(メヒカリ)、ヤナギムシガレイ、アンコウ、ミズダコなどが底曳網で漁獲されます。また、水深500mまで降ろしたカニカゴ漁では、ベニズワイガニがとれます。

このカニカゴ漁では、アブラウズやイバラガニモドキなども混獲されます。



▲水揚げされたキアンコウ



▲サンマ

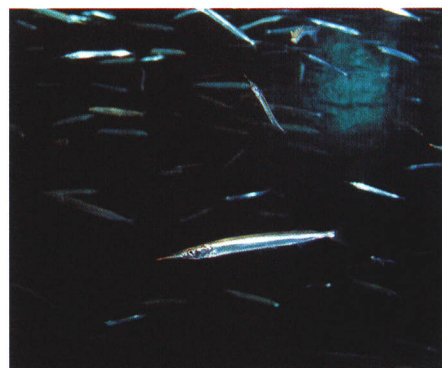
### (5) 飼育が困難な生物

飼育困難生物とは、

- ① 採集することが難しい
- ② 輸送することが難しい
- ③ 水槽環境に適応しない

などの理由により飼育が難しい生物をいいます。主に外洋性生物や深海性生物などがこれに該当します。飼育が難しい魚=珍しい魚ではなく、魚屋さんでごく普通に売っていて食卓にのぼる身近な魚、サンマ、タチウオ、アンコウ、トビウオ、サヨリ、スルメイカなども水族館ではなかなか見ることができない生物です。アクアマリン

ふくしまでは、これからも飼育の難しい生物を研究し、その成果を紹介していきます。



▲サヨリ



▲水揚げされたベニズワイガニ

※外洋性生物=遊泳性サメ類、バショウカジキ、マンボウ、サンマ、マグロ類他  
 ※深海性生物=アコウダイ、アオメエソ、ハダカイワシ他

展示資料解説